

TOSA REHABILITATION COLLEGE

TOSAREHA

未来会



Contents

- 29期生歓迎会のお知らせ
- 定期総会・勉強会
- 28期生歓迎会のお礼
- 新人（28期卒）からの一言
- 学術部からの“報告”と“お知らせ”
- 未来会会員の活躍
- 論文紹介
- 公益信託高知新聞・高知放送 生命の基金
- 高知健康科学大学始動！
- 新教員の紹介
- 第22回かんきつ祭『創り出そう新たな伝統』
- 学会案内
- 23期卒 理学療法学科同窓会 開催報告
- 24期卒 理学療法・作業療法学科同窓会
- 同窓会補助について
- 学術雑誌「健康とリハビリテーション科学」の創刊
- 卒業生の業績案内と活用方法
- 公式LINEへの登録のお願い
- らくらく連絡網における情報共有サービス終了のお知らせ

機関紙

NO. 27

2025. Spring

29期生歓迎会のお知らせ

29期生ご卒業おめでとうございます！

これから未来会会員として、共に研鑽していきましょう！

令和7年3月8日(土)、第29回目の卒業式が挙行されます。本年度は、理学療法学科34名、作業療法学科26名が卒業し、新たな人生の第一歩を歩み始めます。コロナ禍も明け昨年から対面での歓迎会を再開しました。今年も昨年に引き続き盛大に対面での新卒者歓迎会を開催したいと思います。

当日の夜は歓迎会、昼間は未来会総会と勉強会も開催しますので、是非皆さまお誘い合わせのうえご参加ください！

【日時】 令和7年6月21日(土) 19時～

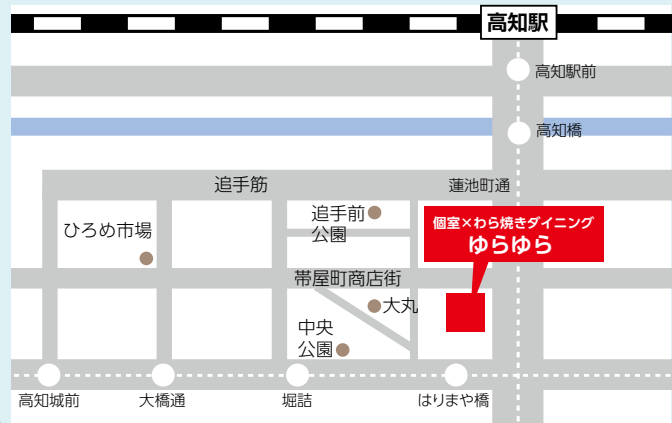
【場所】 個室×わら焼きダイニング ゆらゆら
高知県高知市はりまや町1-3-8 2F
TEL 088-802-8888

【会費】 5,000円(29期生は無料)

会場Map QRコード



<https://maps.app.goo.gl/7TcZKSbHo38Jhhif7>



全会員が下記 QR コードよりご回答ください。

アンケート〆切
5/16(金)



<https://forms.gle/qaokJxrwjtjibMy4p6>



定期総会・勉強会

【日時】 2025年6月21日(土) 定期総会 14:00～14:30 勉強会 14:30～16:35

【場所】 土佐リハビリテーションカレッジ(高知健康科学大学) 1F大会議室・Zoom

【テーマ・講師】

『これからの作業療法士・理学療法士に求めることー土佐リハと高知健康科学大学との融合ー』
宮口英樹先生(高知健康科学大学 学長)

『土佐リハビリテーションカレッジと未来会の俯瞰』

川村博文先生(高知健康科学大学 理学療法学専攻 教授)

対面とZoomのハイブリッド開催 (Zoomの詳細は後日、メールでお知らせします)

28期生歓迎会のお礼

土佐リハビリテーションカレッジ未来会の皆様、お忙しい中28期生の歓迎会を開いていただき誠にありがとうございました。コロナ禍も緩和され直接対面での開催となった事で、より先輩方、先生方に温かく迎え入れてくださったと感じる事が出来ました。

人とのつながりの大切さやコロナ禍では開催する事が難しかった飲み会の場における先生方、先輩方の言葉をお聞き出来る貴重な経験となりました。また、入職したばかりで不安の多い時期での開催でしたが、至る所でご活躍されている先輩方に励ましや応援の言葉をいただき、新人セラピストとしての気持ちの後押しとなりました。

私達28期生も先輩方に追いつけるよう努力し、後輩の背中を押せるような先輩、そしてセラピストとしてのスキルアップも出来るように日々精進して参ります。

未来会の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

芸西病院 リハビリテーション科 下村 怜都 (OT28期卒)



新人(28期卒)からの一言

1年を振り返って

南国中央病院 リハビリテーション科

隅田 智稀(OT28期卒)

私の職場である、南国中央病院は回復期リハビリテーション病棟を中心に訪問リハビリ、短時間通所リハビリで退院後の在宅生活をフォローアップし住み慣れた地域でその人らしく生活ができるよう支援する病院です。

日常生活動作や日常生活関連動作を中心に介入し、PT、STと情報共有を行いながら自宅退院に向けてのプログラムを作成しています。退院後、対象者様やご家族様が安心して生活を送ることができるよう入院早期から家屋調査、福祉用具の選定、住宅改修や介護方法の提案を行なうことが1年を通じて学ぶことができました。

私が意識して取り組んでいることは患者様のニーズを取り入れ、積極的に話しかけ問題解決に取り組むことです。信頼関係を築くことの難しさや目標達

成に向けてこういったアプローチを行うかの難しさを感じています。その中で他職種や先輩療法士の方々に相談し、アドバイスをいただく事で自分自身にはない視点で考え方を得ることができ作業療法士として、成長できていると感じています。

来年度からは臨床2年目となり、これからも研修会に参加し、自己研鑽に励みたいと考えています。また、学びの姿勢だけでなく自ら質問などを積極的にするなど、自主性もしっかり大事にしていきたいと思っています。

今後は対象者様がより良い人生を歩み、質の高い治療を提供できるよう、勉強会などにも積極的に参加し技術や知識を身につけ、臨床人生がより豊かになるように頑張っていきたいと思っています。



藍の都脳神経外科病院 リハビリテーション部

中尾 有利(PT28期卒)

私は、長期実習でお世話になった藍の都脳神経外科病院(大阪府)に就職しました。ここでは脳卒中の患者様だけでなく、脊椎などの整形疾患の方も入院されています。現在は回復期中枢疾患、廃用症候群、整形新患の患者様を主に担当しています。回復期では、患者様の自宅復帰に向けてサービスを整



えたり、施設への転院に向けて身体機能の維持を図ったりと今後の事を見据えて

リハビリを実施するのは難しく、先輩方に相談しながら介入しています。なかなか思うようにリハビリが進まず、悩むことの方が多いですが、同期や先輩方のアドバイスを元にリハビリを進めています。また、少しずつ担当患者さんも増え私自身も余裕がない日々ですが、退院の時に「ありがとう」と感謝の言葉を頂くことがあり、それを糧に頑張っています。

2年目からは知識や技術をより一層学ぶため積極的に勉強会に参加し、患者様から信頼される理学療法士になれるよう日々精進していきたいと思っています。



学術部からの“報告”と“お知らせ”

報告

令和6年度 未来会 勉強会実績報告

令和6年度に未来会では、以下のような内容で勉強会を開催しました。コロナ禍を経て基本的に講義形式の勉強会をハイブリッド開催で実施しておりますが、今年度は一部ではありますが、実技形式の対面勉強会も開催することができました。今後も出来る限りこのような機会を増やし、会員全体のレベルアップや交流につながればと思っています。

第1回	4月17日(水)	『石川県能登半島地震におけるDMATの活動報告』 森下誠也先生 (PT6期卒：田野病院)、武田陽平先生 (PT10期卒：高知赤十字病院)
第2回	6月22日(土)	『歩行の基礎と高齢者の歩行特性』 榎勇人先生 (PT1期卒：高知健康科学大学) 『先行研究から学ぶ「適切な感覚入力」の用い方 ～対象者により良い作業療法・理学療法を提供するために～』 稲富惇一先生 (OT15期卒：土佐リハビリテーションカレッジ)
第3回	8月30日(金)	『ベンチャー企業における作業療法士の働き方』 岩本梓方子先生 (OT23期卒：株式会社Ecold)
第4回	10月18日(金)	『歩行の再建に必要な基礎知識～身体運動力学と神経機構～』 中澤海斗先生 (P22期卒：細木病院)
第5回	12月13日(金)	『橈骨遠位端骨折に対するスプリント療法』 細川和希先生 (OT24期卒：田中整形外科病院)
第6回	3月26日(水) ※予定	『下肢整形外科疾患に関して～スポーツ理学療法の観点から～(仮)』 篠田果歩先生 (PT24期卒：船橋整形外科西船クリニック)



令和6年6月22日：勉強会の様子



令和6年12月13日：勉強会の様子

お知らせ

令和7年度 未来会勉強会計画案

令和7年度の勉強会の予定は以下の通りです。是非、全国各地からご参加ください。詳細は開催1か月前を目途に未来会ホームページや公式LINE、Facebook、らくらく連絡網等にてお知らせします。企画したテーマ以外にも、「こんなテーマの勉強会がしたい」、「○○先生の講義が聞きたい」などの希望がありましたら、忌憚なく事務局までご連絡ください。

第1回	5月8日(木)	『点と線～移植領域におけるリハビリテーションの秘めた可能性～』 濱田涼太先生 (PT18期卒：京都大学医学部附属病院)
第2回	6月21日(土)	『これからの作業療法士・理学療法士に求めること—土佐リハと高知健康科学大学との融合—』 宮口英樹先生 (高知健康科学大学 学長) 『土佐リハビリテーションカレッジと未来会の俯瞰』 川村博文先生 (高知健康科学大学 理学療法専攻 教授)
第3回	8月(予定)	『精神科デイ・ケアにおける作業療法の動向(仮)』 北村剛先生 (OT18期卒：細木病院こころのセンター)
第4回	9月18日(木)	『腎臓リハ、現場のリアルとコツ～基礎から臨床において～』 小林英悟先生 (PT9期卒：神明病院)
第5回	12月(予定)	『ノーリフトケアを一年間実施し、学んだこと ～双方の健康的な生活を保証できるケアの実践について～』 住江知昭 (OT23期生：訪問看護ステーションおたすけまん)
第6回	1月(予定)	『実践を含めたデータベースの作り方、データ分析について(仮)』 池本祐貴先生 (PT22期卒：いの町立介護老人保健施設仁淀清流苑)
第7回	3月(予定)	『OTとして行政と共同する意義』 大崎雅俊先生 (OT17期卒：HITO病院)

未来会会員の活躍

第24回認知神経リハビリテーション学会 優秀賞

愛宕病院

片岡かおる (OT1期卒 旧姓:都築)



これでよかったのか…、もっと他に方法がなかったのか…、これは私が第24回認知神経リハビリテーション学会学術集会の一般演題にて発表を行った理由です。演題は『他者の手から自分の手への身体認識の過

程：被殻出血による身体失認患者』で、重度の感覚運動障害や身体・病態失認、半側空間失認、眼球運動障害等を有する方が発症から約6か月後に自身の身体(麻痺手)を認識した過程を発表しました。障害が重度、重複していること等から、立案した治療仮説通りにリハが進まず悩みながら治療を実施しました。発表後には、私にはなかった視点での患者さんや病態の捉え方、参考になる知見等をご教授いただき大変勉強になりました。

今回の学会のテーマは“行為のシミュレーション～臨床を研ぎ澄ます～”で、全国各地で認知神経リハビリテーションに取り組まれている方や興味のある方が参加し、活発な討議や意見交換が行われました。各講演からは行為の回復や学習に必要な要素を学び、参加者の方々の臨床に対する熱意に触れたことは大きな刺激になりました。症例の回復を目指し、悩みに真剣に耳を傾け意見交換やアドバイスをしてくださる方がたくさん居るということを大変心強く感じました。

片岡愛子先生、日本作業療法士協会／高知県作業療法士会 名誉会員ご就任！祝賀会に参加して

高知健康科学大学

箭野 豊 (OT3期卒)

2024年10月26日、片岡愛子先生の日本作業療法士協会および高知県作業療法士会 名誉会員承認祝賀会が開催されました。

片岡先生は、本校の元作業療法学科長であり、私たち3期生の担任として4年間ご指導いただいた恩師です。これまでの多大なご功績が認められ、このたび名誉会員として承認されました。その祝賀会(高知県作業療法士会主催)に、3期生を代表して出席させていただきました。

私自身、当初は高校教員を志望していましたが、大学受験に挫折し、進路変更を経て土佐リハに出会いました。そして片岡先生のもとで学び、多くのご指導を受けながら作業療法士としての道を歩むことができました。片岡先生は、学生の得意分野を伸ばすだけでなく、本人が気づきにくい強みを見つけ、育ててくださいました。特に、私が臨床の師匠と仰ぐ



高知県作業療法士会会長 浅川英則氏から名誉会員証を贈呈

私が臨床の師匠と仰ぐ柏木正好先生との出会いの機会をいただけたことは、今でも大変感謝しています。

さらに、片岡先生は現在も作業療法士とし

ての研鑽を続けておられ、臨床の傍ら障害者や高齢者のICT機器利用を支援する「デジタルアクセシビリティアドバイザー」の認定試験に合格されるなど、新たな分野にも積極的に挑戦し続けていらっしゃいます。その姿勢には、後進として大きな刺激を受けるとともに、改めて尊敬の念を抱かずにはられません。

片岡先生のこれまでのご功績に心より敬意を表するとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。お身体を大切に、これからもご指導賜りますようお願い申し上げます。

【片岡愛子先生のご経歴】

1977年に日本作業療法士協会に入会し、正会員歴は47年。この間、協会活動歴は約20年に及び、そのうち1991年から2009年までの約18年にわたって協会役員(理事)を務めながら、身体障害作業療法委員会、広報部、学会評議委員会の委員・部員等としても活動し、本会に多大なる貢献を果たしました。また、1983年から1996年の13年間、高知県作業療法士会の会長、1996年から2000年までは同士の理事も歴任して地方組織の発展にも大きく貢献されました。以上の功績が認められ、日本作業療法士協会ならびに高知県作業療法士会の名誉会員に承認されました。



片岡愛子先生との記念撮影

博士(医学)取得+学業優秀賞

土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科
稲富 惇一 (OT15期卒)



中央稲富、向かって右山口先生、向かって左谷口先生

令和6年3月に高知大学大学院総合人間自然科学研究科を修了し、博士(医学)を取得しました。また、ありがたいことに学業優秀賞を受賞することができました。

博士号を取得して私が最も感じた気持ちは、「感謝」です。まず、修士課程から博士課程に至るまでご指導い

ただいた山口教授には、研究の基本すら分からなかった私を丁寧に導いていただきました。時には家庭や職場の状況に配慮して打ち合わせ時間を調整してくださり、研究に専念できる環境を整えてくださいました。次に、職場の方々には、データ計測や教授との打ち合わせにご理解をいただき、研究に集中できる環境を提供していただきました。修了が決まった際には心から祝福していただき、大きな励みとなりました。そして妻は、2歳と0歳の息子を抱えながらも、大学院進学を後押ししてくれました。途中、娘が生まれ、コロナ禍に直面した際も、さまざまな面でサポートしてくれました。

皆さんの支えがなければ、博士号取得は叶わなかったと思います、この場を借りてお礼申し上げます。

博士号を取得し、ようやく研究者としてのスタートラインに立つことができました。感謝の気持ちを忘れず、これからも研究を続け、リハビリ業界や後輩、学生に還元し、少しでも社会の役に立てるよう努めてまいります。

第51回四国理学療法士学会 奨励賞 受賞

いの町立介護老人保健施設仁淀清流苑
池本 祐貴 (PT22期卒)
土佐市立土佐市民病院
中川 安奈 (PT26期卒)



第51回四国PT学会 表彰式

第51回四国理学療法士学会において、22期卒の池本祐貴氏(いの町立介護老人保健施設仁淀清流苑)と、26期卒の中川安奈氏(土佐市立土佐市民病院)が奨励賞を受賞しました。本学会では62演題が発表され、その内2名が奨励賞に選ばれています。

池本氏の演題では「高齢者における相対的な立ち上がりパワーと移動能力の関連性 - 移動制限を判別するカットオフ値の算出 -」という演題を発表されています。研究は、介護保険サービスを利用する要支援・要介護高齢者65名を対象として、高齢者の立ち上がりパワー(W/kg)と移動能力(歩行速度)の関連性及び移動制限を判別する閾値について横断的に検討した内容でした。高齢者の立ち上がりパワーと移動能力は効果量大で有意な正の相関を示し、内的検証を考慮して移動制限判別値2.1W/kgという閾値が算出されました。立ち上がりパワーは簡便で安価に測定できる

為、ベッドサイドなどの限定された環境下においても、要支援・要介護高齢者の移動能力低下を判別できる可能性があります。移動制限は、高齢者の将来の日常生活動作能力低下を予測し、Quality of Lifeに繋がると報告されている為、研究で得た立ち上がりパワーの知見は、地域・予防理学療法分野に貢献する有意義な内容だったと言えます。

中川氏の演題では「座位での等尺性股関節外転筋力および等尺性膝伸展筋力を併用した歩行自立度判別精度について」という演題を発表されています。研究内容は、65歳以上の入院患者129例を対象とし、座位股関節外転筋力および等尺性膝伸展筋力の歩行自立度との関連性について検討しています。結果、等尺性膝伸展筋力カットオフ値を0.30kgf/kg、座位股関節外転筋力カットオフ値を0.23kgf/kgとした場合、両指標のカットオフ値を満たす独歩自立例の割合は86%、等尺性膝伸展筋力のみを満たす独歩自立例は52%、座位股関節が移転筋力のみを満たす独歩自立例は40%、両指標とも満たしていない独歩自立例は4%でした。両指標を満たしていない独歩自立例は1例のみであり、一方を満たした場合でも独歩自立例は半数程度であったことから、独歩自立には最低限の座位股関節外転筋力および等尺性膝伸展筋力を有する必要があり、両指標の併用で判別精度が向上することが示唆されました。

ともに秀でた素晴らしい研究でした。今後も卒業生の活躍を楽しみにしています。

(第51回四国理学療法士学会 準備委員長 渡邊 家泰)

『第8回アジア太平洋作業療法学会(The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024)』に参加して感じたこと。

サンテ・ペアーレクリニック

岩井 萌 (OT24期卒)



こちらは9日に開催されたWFOT会長 Smantha Shann 氏のご講演での写真です。

“Individually, we are one drop. Together, we are an ocean.” Ryunosuke Satou (個別には一滴の水です。しかし一緒にいれば、それは海になります。佐藤龍之介)

2024年11月6日から9日まで北海道で開催された APOTC でポスター発表させていただきました。

私は、臨床現場で子どもたちと一緒にチャレンジすることを大切にしており、その重要性を日々伝えています。“まずはやってみる！”そこから一緒に解決策を考えるよう心がけています。この姿勢を自分にも当てはめ、アジア学会への挑戦を決意し参加しました。

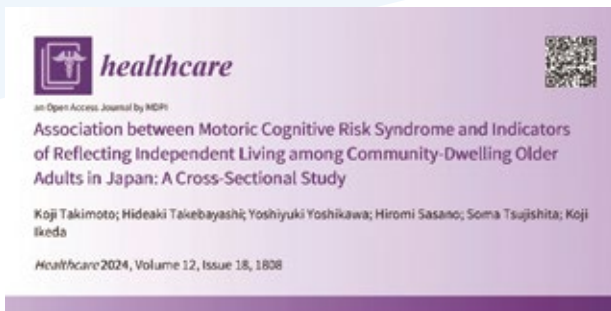
特に印象に残ったのは、日本では商品化されている福祉用具が、ある国では自作されているのを見たことです。その工夫と努力に感動し、各国の文化や生活環境、医療制度の違いが、患者様への対応方法に大きく影響を与えることを実感しました。環境に合わせて物を作成し活用している姿に、作業療法士らしさとこの職業の素晴らしさを改めて感じました。この経験を通じて、今後も自分自身が成長できるよう努力を続けていきたいと思っています。

論文紹介

Healthcare誌にMCRに関する論文が掲載

奈良学園大学保健医療学部

滝本 幸治 (PT4期卒)



2021年度から科研費(若手研究)で竹林秀晃先生(PT学科1期卒)らと取り組んできた成果の一端が、2024年9月にHealthcare誌に掲載されました。論文タイトルは「Association between Motoric Cognitive Risk Syndrome and Indicators of Reflecting Independent Living among Community-Dwelling Older Adults in Japan: A Cross-Sectional Study (地域在住高齢者のMotoric Cognitive Risk Syndromeと自立生活指標との関連:横断研究)」です。Motoric Cognitive Risk Syndrome (MCR)は、主観的認知機能低下(もの忘れ)と歩行速度低下をあわせもつ状態像で、認知症発症を反映する指標としてVergheseら(J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2013)によってはじめて紹介されました。本研究は、日本でフレイル健診

として用いられている後期高齢者の質問票(QMCOO)やJST版活動能力指標などを用いて、MCRが高齢者の健康や高次生活機能にどの程度反映するか検討したものです。結果、MCRはこれらの指標を反映し、地域在住高齢者のスクリーニングとして活用し得ると結論づけています。

コロナ禍にスタートした本研究は、見事に鼻をくじかれました。しかし、前職の土佐り八を離れてから最初の研究ということで、新天地の奈良で新たに出会った仲間と、そして高知から届くエール(実際届いたのは日本酒)を糧に取り組みむことができました。本研究は継続していますし、別テーマの研究も並行して動いています。地域在住高齢者(要支援者含)のヘルスプロモーションや介護予防領域に関心や課題をお持ちの方、当該領域で現在まで既に取り組んでおられる方など、情報共有させて頂けると嬉しいです。気兼ねなく、滝本までご一報ください(連絡はFacebookで、あるいは奈良学園大学HP参照)。



Healthcare 2024, 12 (18), 1808; <https://doi.org/10.3390/healthcare12181808>

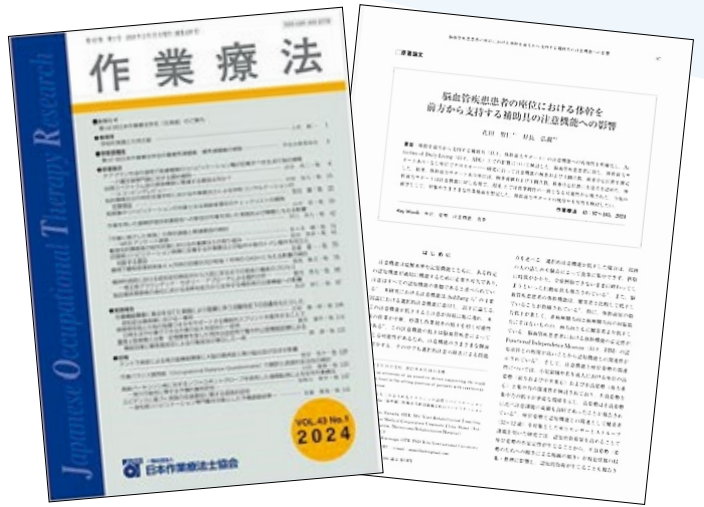
<https://www.mdpi.com/2227-9032/12/18/1808>



初めての論文投稿

医療法人三全会うめもとクリニック
訪問リハビリテーション Umeclia
花田 智仁 (OT14期卒)

この度、私の論文「脳血管疾患患者の座位における体幹を前方から支持する補助具の注意機能への影響」が、作業療法士協会が発行する「作業療法誌」に掲載されました。この研究では、体幹を前方から支持する補助具（体幹前方サポート）が、脳血管疾患を抱える患者さんの注意力や体のバランスにどのような影響を与えるかを調査し、日常生活動作への影響について考察しました。今後は、体幹前方サポートのより多様な対象や作業場面での有用性をさらに研究していきたいと考えています。初めての論文が、作業療法誌へ掲載され、大変嬉しかったです。これからも日々の臨床や地域活動を通しながら研究を進めていけたらと思います。



リアルワールドデータを世界に発信

京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部
理学療法士
濱田 涼太 (PT18期卒)

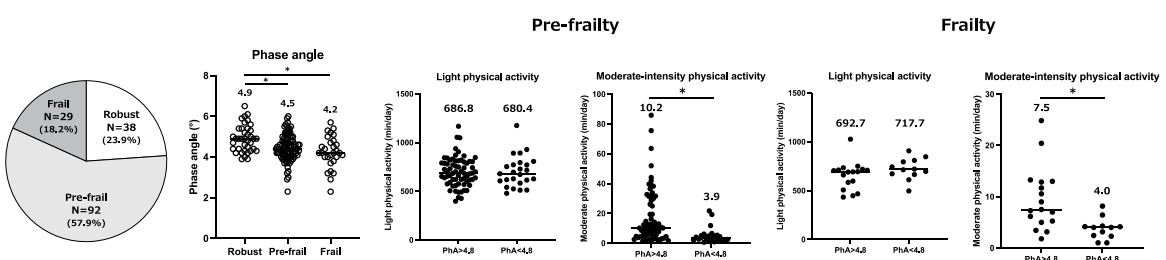
土佐リハを卒業し理学療法士として働き出して早10年が経過しました。卒業式に担任の滝本先生から「臨床5年目までをどう過ごすかが特に大切だ」というメッセージを受け、右も左も分からない新人時代はこの言葉を胸に秘めて日々の臨床に励んでいました。今、その倍の年数が経過し、この言葉がかつての滝本先生のように新人に伝える立場になってきました。私は日常臨床から得られるリアルワールドデータを用いて主にがん（血液疾患）、内部障害を中心に研究を行っています。昨年は“Transplantation and Cellular Therapy”に「Belt Electrode-Skeletal

Hematopoietic Post-Transplantation To Prevent Skeletal Muscle Atrophy and Weakness.」、 “Respiratory medicine”に「Phase angle measured by bioelectrical impedance analysis in patients with chronic obstructive pulmonary disease: Associations with physical inactivity and frailty.」などが採択され、国際誌の筆頭論文も13本まで増えました。現在も1つ1つの研究の繋がりを意識しながら様々な視点から解析を進めております。今後もより一層精進して参りたいと思います。

Respiratory Medicine

Phase angle measured by bioelectrical impedance analysis in patients with chronic obstructive pulmonary disease: Associations with physical inactivity and frailty

Ryota Hamada, Naoya Tanabe, Yohei Oshima, Yuji Yoshioka, Tomoki Maetani, Yusuke Shiraishi, Atsuyasu Sato, Susumu Sato, Ryosuke Ikeguchi, Shuichi Matsuda, Toyohiro Hirai



この度、公益信託高知新聞・高知放送2024年度「生命の基金」の助成制度に研究が採択されました。

「生命の基金」は、医療の充実や振興のために治療や研究、支援活動などに取り組む人たちを助成するための基金です。今回、「がん治療で生じる末梢神経障害における筋力低下の特性についての検証」（50万円）のテーマで採択をいただきました。本研究では、血液がんで化学療法治療を行うなかで発生する化学療法誘発性末梢神経障害（CIPN）によって生じる握力・ピンチ力低下の特性を瞬時的な筋力発揮（rate of force development:RFD）を用いて検証します。

私は、作業療法領域であるハンドセラピィをフィールドワークとしていますが、高知大学医学部附属病院はがんの拠点病院の機能もあり、がん患者さんのリハも行っています。近年、がん治療対象の若年化や就労世代の高齢化が相まって、がんサバイバーは増加していると報告されています。そこで、CIPNによって生じる更衣や書字といった、物をつまむ筋力の低下や就労動作の困難さを手指筋力の特性を明らかにすることでさらに効果的な訓練に繋がれないかと考え、調べようと思いました。

高知大学医学部附属病院 井津 直哉（OT14期卒）



左から稲富惇一 竹林秀晃 井津直哉 渡邊家泰

採択者とテーマ

◆竹林 秀晃（PT1期卒）

「人生の生きがい感とメンタルヘルスとの関係」

◆井津 直哉（OT14期卒）

「がん治療で生じる末梢神経障害における筋力低下の特性についての検証」

◆稲富 惇一（OT15期卒）

「肢体不自由児に対するデジタル機器を用いた運動教室」

◆渡邊 家泰（PT16期卒）

「高知県内の市民ランナーの体力向上に関わる要因分析」

高知健康科学大学始動！



高知健康科学大学
学長
宮口 英樹

高知健康科学の初代学長を務めさせていただくこととなりました宮口英樹と申します。高知健康科学大学は、「人々の健康と幸福を追求し、地域社会に貢献する」という使命を掲げています。その使命を実現するために、開学より教育・研究・地域貢献を柱とした組織作りを行ってきました。2025年2月にオープンする新図書館をはじめ2024年5月に開設した未来健康創造研究センター、地域連携支援センターは、その取り組みをさらに深化させる重要な拠点となります。

未来健康創造研究センターは、最先端の健康科学研究を推進する場として設立されました。「Wellbeing・発達科学部門」「基礎・運動科学部門」「神経・精神科学部門」の3つの部門に専門分野の研究者が集い、健康寿命の延伸や地域医療の課題解決に向けた革新的な研究を進めています。教員それぞれが研究室を運営する方法により、地域の健康課題に即した具体的なソリューションを創出し、社会全体への貢献を目指しています。各研究室の内容は動画でも公表していますので是非ご覧ください。

地域連携支援センターは、地域との協働を強化するための拠点です。地域企業や自治体と連携し、実践的な研究やプロジェクトを展開しています。このセンターを通じて、大学と地域社会が一体となり、持続可能な発展を共に目指します。

私は、奈良県リハビリテーションセンター、県立広島大学、広島大学で特にひとの認知機能の発達や障害からの回復に興味を持ち、臨床と研究を行ってきました。研究成果はリハビリテーションに限らず、教育や就業などの分野でも生かしていきたいと思えます。今後ともよろしく願いいたします。



新教員の紹介



椛 秀人 先生

福岡県出身

長きに渡り非常勤講師を務めさせて頂いておりましたご縁で、この度、専任教員として着任させていただきました。素晴らしいスタッフの方々に囲まれて教育、研究、社会貢献に役割を果たして参る所存でございます。研究では個体認識・記憶の基礎過程としてのシナプスの可塑性を電気生理学的に解析して参ります。未来会の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【略歴】

鹿児島大学農学部獣医学科卒業
獣医師免許取得
徳島大学大学院栄養学研究科博士課程修了
高知医科大学医学部助手
ケンブリッジ大学解剖学科へ留学
高知医科大学医学部助教授
鹿児島大学農学部教授
高知医科大学医学部教授
自然科学研究機構生理学研究所環境適応機能発達研究部門客員教授
高知大学医学部教授
高知健康科学大学健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻教授となる。



川村 博文 先生

高知県出身

単身赴任24年を経て高知に帰ってきました。山北で1期生の皆様方に物理療法学を講義した日から30数年間にわたり外来講師として携わってきたご縁で、この度、光栄にも着任を果たすことができました。すばらしいスタッフ、校風に包まれて教育、研究、社会貢献に邁進しています。

未来会の皆様、何卒、宜しく願いたします。

【学歴】

国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業
高知大学大学院理学研究科物理学専攻修了（修士：理学）
高知大学大学院医学系研究科神経科学系専攻修了（博士：医学）

【職歴】

高知医科大学（現高知大学）附属病院リハビリテーション部
広島県立保健福祉大学
神奈川県立保健福祉大学
甲南女子大学
高知健康科学大学健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

【専門分野】

物理療法学



榎 勇人 先生

高知県出身

土佐リハを1期生として卒業し、高知県にて臨床を17年間、徳島県にて大学教員を10年間行い、今年度母校に着任しました。これまでの経験を活かし、同期の竹林先生や岡部先生などと共に力を合わせて母校の発展に寄与していきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

【学歴】

土佐リハビリテーションカレッジ卒業（1期生）
高知大学大学院医学系研究科医科学専攻終了（修士：医科学）
高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻終了（博士：工学）

【職歴】

高知県農協総合病院（現：JA高知病院）
高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部
徳島文理大学 保健福祉学部理学療法学科
高知健康科学大学 健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

【専門分野】

基礎理学療法（専門理学療法士）、
運動学、運動力学

5年ぶりの本格開催!



第22回かんきつ祭 『創り出そう新たな伝統』

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科 理学療法学専攻 近藤 寛

今年より、かんきつ祭の総責任者を務めさせていただきます。理学療法学専攻の教員、近藤寛です。かんきつ祭は例年、年に一度、2日間にわたって開催され、多くの方に親しまれてきました。しかし、2020年には新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の形での開催が困難となりました。しかし、学生や教員が力を合わせ、2020年から2021年はリモート形式での開催、2022年には対面での半日開催、2023年には1日開催と、少しずつ元の形に近づけてまいりました。そして今年2024年、約5年ぶりに外部の皆様をお迎えし、従来通りの2日間開催（2024年10月12日～13日）を再開することができました。

今年は、前身校である土佐リハビリテーションカレッジとしては22回目、高知健康科学大学としては初めての開催となりました。1日目は学内限定で行われ、各学科・学年がチームに分かれて、①イントロドン、②早押しクイズ、③綱引き、④早食いの4種目で競い合いました。実行委員長が司会を務め、スムーズな進行を実現し、副実行委員長や各責任者の協力もあり、チーム全員が団結して取り組み、最後まで熱気に満ちた1日目となりました。

2日目は大学を一般開放し、地域の皆様や学生のご家族、友人、卒業生など、多くの方々にご来場いただき

ました。縁日やお化け屋敷、食品販売、PT/OT体験など、学生が企画・運営した多彩なブースが並び、いずれも大いに賑わいました。また、キッチンカーや献血バス、外部団体「エンドオブライフ・ケア高知」さんによるハスワーク®や笑い文字、絵手紙の展示など、地域との交流を深める場としても充実した内容となりました。

今回のかんきつ祭は、学生と教職員の協力、さらには地域の皆様や外部団体のご支援により、無事に2日間を終えることができました。特に、5年ぶりの開催にもかかわらず、準備段階から当日までスムーズに進行できたのは、多くの方々の熱意とチームワークの賜物だと感じています。今回の経験を活かし、来年以降もさらに魅力的なイベントを企画し、地域とのつながりを深める機会として発展させていきたいと思っております。また、かんきつ祭の一部費用は、未来会からの補助金も活用させていただきました。このご支援により、多くの方々に楽しんでいただける企画を実現することができました。心より感謝申し上げます。今後とも、かんきつ祭へのご支援とご参加をよろしくお願いいたします。



学会案内

第94回

日本体力医学会
中国・四国地方会

日程：2025年6月28日(土)・29日(日)

会場：高知健康科学大学

当番幹事：竹林 秀晃(PT1期卒)

事務局長：近藤 寛(PT14期卒)



特別講演：「**個体認識・記憶を司る社会脳の研究、
そして共同研究者との歩み**」

樫 秀人先生（高知健康科学大学 教授・社会性神経科学研究室）

生理学を教えていただいた樫先生の講演を聴講できる貴重な機会です。ぜひご参加ください。併せて、たくさんの演題登録もお待ちしています。情報は、日本体力医学会中国・四国地方会のHPで更新予定です。



<https://jpsfsmchu4.wixsite.com/chu4>



23期卒 理学療法学科同窓会 開催報告

幹事: **中岡 拓巳** (PT23期卒 大西病院)

於: 2024年11月2日

今回、卒業から5年経ちそれぞれの場所で活躍している仲間達と交流の場を持ちたいと思い2024年11月2日(土)に高知市内で勉強会・同窓会を開催致しました。同窓会当日は久しぶりに顔を合わせる人が多かったですが、いい意味で学生の時と変わりなく昔の話や仕事の話で盛り上がりました。また、懐かしい話や熱い話が飛び交い良い時間を過ごせました。お忙しい中同窓会に参加して下さった4名の教職員の先生方、ありがとうございました。先生方も何年経っても変わらず話も面白く土佐リハは本当にいい母校だなと実感しました。

学生時代から事あるごとに何か理由をつけて飲み会を開くほど飲み会に対するモチベーションは高い学年でした。次回は5年後にでも開催できればなと思っています。その時は23期作業療法学科も一緒にどうでしょうか?連絡待ってます。

土佐リハは今年から高知健康科学大学へ名称が変わりましたが、母校としては変わらないのでまた学校へも顔を出して行ければなと思っています。また集まりましょう!



24期卒 理学療法・作業療法学科同窓会

幹事: **細川 和希** (OT24期卒 田中整形外科病院)

於: 2025年1月4日

24期卒の理学療法・作業療法学科の同窓会を合同で2025年1月4日(土)に開催しました。僕たちが卒業するときはコロナウイルスが流行し始めており、飲み会等は自粛モードで卒業式は中止になりました。24期での同窓会は初めてで、5年ぶりに集まることが出来たので大変うれしく思います。

担任であった岡部先生と箭野先生に講師を依頼して、土佐リハピリテーションカレッジ(現在は高知健康科学大学)で勉強会を実施しました。先生方の講義を受講するのは5年ぶりで学生時代を思い出しました。講義の内容もとても分かりやすく、改めて基礎が大事だと痛感した内容でした。

勉強会の後は、同窓会を実施しました。久々に会う友人も多く、お互いの近況報告や学生時代の話などで盛り上がりました。同窓会もあつという間でしたが、久しぶりに同期と会うことが出来たのでとても嬉しかったです。もうすぐPT・OTとなって5年になります。機会があればまた集まりたいと思います。



同窓会補助について

未来会では、従来より会員相互の交流を活性化するため同窓会を開催する際に援助をしております。また、各卒業期の集まりだけでなく、複数期の集まり例えば関西地区の卒業生の集まりなども歓迎します。開催条件と補助額は以下の通りです。

未来会としては、卒業生相互の交流を活性化するために同窓会を開催する際に援助いたします。

開催条件は以下の通りです。

- 事前・事後報告書の提出
- 懇親会のみではなく、勉強会とセットで行うこと(懇親会のみでは補助はしない)
- 勉強会の条件 時間は30分以上

1時間を超える場合は、時間に応じて講師代としての補助(時間単位での支給であり、講師数には関係ない)

1時間~1時間30分:5,000円 以上、1時間30分ごとに5,000円追加

*勉強会の場所は、学校が望ましい。

例: 懇親会会場で勉強会を行い、そのまま懇親会を行う場合も可。

- 参加者への補助 県内の参加者 1,000円
県外の参加者 3,000円の補助
- 参加者に本校教員がいる場合、各期各学科 5,000円
- 補助は、5年に1回

各期や学科合同、複数期合同の同窓会などを開催する際には、未来会事務局まで問い合わせてください。

学術雑誌「健康とリハビリテーション科学」の創刊

土佐リハビリテーションカレッジの出世魚として2024年4月「高知健康科学大学」が開学しました。新図書館や基礎医学研究を行う研究棟が完成し、教育や研究の環境がさらに充実しています。ぜひ一度大学にお立ち寄りください。また、附属機関として「未来健康創造研究センター」と「地域連携支援センター」が立ち上がり、研究活動の推進や地域貢献のさらなる活性化に取り組んでいます。

そして、新たな学術雑誌「健康とリハビリテーション科学」の発刊も決まり、間もなく創刊号が出来上がります。執筆要綱など詳細は未来会のHPに掲載しますので、多くの皆さまからの論文投稿をお待ちしています。

一方で、これまでの土佐リハの学術雑誌「土佐リハビリテーションジャーナル」も引き続き発刊していきたいと

思っています。「土佐リハ」の名をこれからも残し続けていく大切な取り組みだと考えています。ぜひ、卒業生の力で継続できるようにお力をお貸しください。

合わせて論文投稿をお願いします。

高知健康科学大学 健康科学部学部長
竹林秀晃 (PT1期卒)



卒業生の業績案内と活用方法

未来会のHPにて会員の学術的活動（学会発表・論文発表）や社会貢献活動、さらには学位や認定資格などの取得情報を掲載しております！これらの情報は今後さまざまな活動に挑戦をしたい会員の皆様に活用していただきたいという思いで作成しております。それぞれの活動を行っている会員の連絡先なども掲載されておりますので、ぜひ積極的に情報

交換や交流を行ってみてください！

また、これらの情報は年度毎にアップデートすることを目標としており、定期的に会員活動に関するアンケート調査を行っております。新たな活動を行った会員の皆様はぜひ積極的な情報共有をお願い申し上げます。

学位取得

(修士・博士)

2021.03.29 学位取得 (修士・博士)

卒業生 学位取得者一覧

資格取得

(認定 PT・OT・専門 PT・OT)

2021.03.29 資格取得 (認定 PT・OT、専門 PT・OT)

卒業生 PT・OT 関連資格 取得者一覧

2021.03.01 資格取得 (認定 PT・OT、専門 PT・OT)

卒業生 認定・専門 PT、認定・専門 OT、PTOT 協会認定 資格取得者一覧



<https://www.tosareha.ac.jp/miraikai/>





公式LINEへの登録のお願い

未来会では、会員の主な情報共有手段として「土佐リハ未来会」公式LINEを開設しております。出来るだけ多くの会員（卒業生）に登録してもらい、未来会や母校からのお知らせや勉強会・イベント情報など、色々な情報をお届け出来ればと思っています。恐れ入りますが、まだ登録されていない方は、以下のリンクから、ご登録（友だち追加）ください。

なお、公式LINE料金プランの改定（2024年6月）に伴い、これまで土佐リハ①未来会PT1～25期卒、②未来会PT26期卒～、③土佐リハ未来会OT1～25期卒、④未来会OT26期卒～の4つに分けていたアカウントを、「土佐リハ未来会」1つのアカウントに一元化しました。つきましては、これまで①～④で登録いただいていた方も、右のQRコードから登録（友だち追加）をお願いします。

これまでに登録して頂いた方も、再度友だち追加をお願いします。



らくらく連絡網における情報共有サービス終了のお知らせ

「土佐リハ未来会」公式LINE開設に伴い、これまで未来会の情報共有手段として運用してきた「らくらく連絡網」での情報共有サービスを終了することになりました。つきましては、公式LINEの登録がお済でない会員は、できるだけ早めにご登録ください。以上、ご理解ならびにご協力のほど、よろしくお願い致します。

※らくらく連絡網について詳しく知りたい方は
ホームページ (<http://www.ra9.jp/>) をご参照ください。



全会員、定期総会アンケート(下記QRコード)よりご回答ください

アンケートメ切 5/16 (金)

<https://forms.gle/qaKjxrwtjJbMy4p6>



職場・住所変更された場合は、未来会事務局まで e-mail にてご連絡ください。

未来会事務局 e-mail : miraikai@tosareha.ac.jp (未来会事務局代表) TEL : 088-866-6119 (土佐リハ内)

